

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

2008年7月26日発行 第42号

バンコク便り

タイ・バンコク在住の西川会長から

(NT 通信 41 号の概要)

タイで日本語を教える筆者は、ある日系企業で、経理から清掃婦、大卒から小学校卒まで様々なバックグラウンドを持った人をまとめて教えることに。

何度か打ち合わせの後、ついにコースが始まりました。私が到着するころはまだ就業時間で、社内は相変わらず緊張感が張り詰めています。日によっては鬼社長が社員を叱り飛ばす声も聞こえてきて、私も叱られやしないかとひやひやしたものです。社員みんなが萎縮しているように見え、居心地の悪さに逃げ出したいくなる人がいてもおかしくない、などと、勝手な想像をしていたのです。授業では、元気で明るいみんなが就業時間内はしかめっ面で仕事に向かっているのですから、私は、同情さえ感じていました。

しかし、そんな思いは、授業が始まってすぐに打ち消されるのでした。日本語を教える時、私はできるだけ学生の身近にあるものをネタに授業を進めるようにしていますが、この会社では、鬼社長と、その社長に叱られてばかりでうんざりしているタイ人社員という構図でネタを考えたところ、どういうわけか肩透かしを食らうことが一度や二度ではなかったのです。ある日は「好き」という言葉を教えた時のこと。「好き」という言葉を教える時には、私は、食べものやスポーツに加えて、「仕事」や「会社」が好きかどうかを聞くようにしています。そうすると必ず「好きじゃない」と答える学生がいて、その場が盛り上がりすぎるからなのですが、この会社で同じことを期待して、「会社は好きですか」、「社長は好きですか」と聞くと、驚いたことに、皆が口を揃えて「はい、好きです」と答えるのです。そういうことが何度もありました。私が勝手に想像していた構図がどうも実際のものとは違っていったようなのです。

そのうちに、しかめっ面なのは、単に仕事に真剣に打ち込んでいるだけではと思うようになり、また、鬼のように厳しい社長がどうして厳しいかを社員が皆理解しているのだと思えるようになったのです。

さて、授業が何ヶ月か続くと、一人また一人と脱落者が出てきました。残念ながら、残業が続いて休みがちになった人は次第に授業についてこられなくなり、ついにはドライバーさんや倉庫のあんちゃん達、男性陣は一人残らずいなくなってしまい、残ったのは一人を除いて、大卒の事務員ばかりになってしまいました。

その一人、私の予想を裏切って最後までがんばった大卒でない生徒が、お茶汲みの J さんでした。彼女もじつは「ローマ字が読めない組」だったのですが、教えたことをいつも完璧に覚えてくるという大変な努力で、文法説明時には「わからない！」と悲鳴を

上げながらも、大卒の社員と同じように授業をこなしていきました。お茶汲みで毎日日本人社員と簡単なおしゃべりをする機会に恵まれている彼女は、むしろ大卒のほかの生徒たちよりも習った日本語をしっかりと身につけているようでもありました。「若い時に勉強できなかったから」と口癖のように言っていた彼女は、イサーン地方の小学校を卒業後、進学の機会を得られず、すぐにバンコクに出稼ぎに来たとそうです。タイ政府による中等教育普及のための「機会拡大政策」が始まる少し前、もう少し生まれるのが遅ければ中学、いや高校まで行けていただろうという世代の女性です。キャンの奨学金プログラムがもう少し早く始まっていて、それが彼女に渡っていたら……。そんな境遇から、私はキャンの奨学生とオーバーラップさせて彼女を見るようなこともありました。彼女とは、帰りの送迎車で最後まで車に乗っているのが私と彼女だった関係で、道中いろいろな話をしました。

田舎のこと、家族のこと、子供のこと、会社のこと。会社がタイに進出して社員が数人しかいなかった頃から働いていること、社長がとても怖いこと、でも、本当はとても社員思いであること、だから、会社が大好きだということ。保険で賄えない分も会社が医療費を負担してくれること、交通費をバイクタクシー代まで支給してくれること、辞めさせられるかと思ったのに、小学校卒の自分に2度も産休を取らせてくれたこと、会社が都心から郊外に移転したときには、彼女と倉庫番のたった2人が会社を辞めなくていいようにと会社が通勤車を用意してくれたこと、お茶汲みと掃除しかできなかった自分にタイピングや英語を習わせてくれたこと、そして今、日本語を勉強する機会を与えてくれているということ。小学校までしかいけなかったけど、この会社に入ったおかげで、世界がぐんと広がったと……。

利益追求が目的だと思われがちな企業が、これだけの希望を彼女に与えたこと、また、日本の経営手法を持ち込みつつも、それを社員に理解させ、実践させ、結果として社員にこれだけの満足を与えられたことに、私は驚きとともに感動さえ感じました。後で知ったのですが、実際、社員の定着率も非常にいいそうです。

こんな会社ばかりではないでしょう。しかし、こうした形で計り知れない社会貢献をしている会社が実際にあるということ、そして私が出会ったこの会社が日系企業であったこと、こうした会社が少しずつ日本ファンを作ってくれているということに、海外に住む日本人の一人である私も暖かな気分になったのでした。

その後、残念ながら、この会社のクラスはなくなってしまいましたが、今でもときどき、奨学生のことを「今どうしているのだろうか」と思い出すように、「Jさんやいっしょに授業を受けていた倉庫番のおにいちゃんたちのことをふと思い出すことがあります。「失礼します、日本茶です。どうぞ。」と言って、今でも、私が教えた日本語を使ってお茶汲みしているのだろうか。

西川弘達@バンコク

特集記事

～カサロンの家からの報告①～

キャンヘルプの皆様お久しぶりです。カサロンの家のボランティア浅井です。早いもので、こちらに来てから3ヶ月が経ちました。先日滞在期間を延ばすためにタイとミャンマーの国境であるメーサイ・タチレクに行ってきました。ミャンマーはサイクロン被害からまだ復帰していないようですが、タチレク地域はその被害の影響はなく、多くの方が行きかかっていました。私は人生で初めて国境を自分の足で渡りました。タチレク（ミャンマー）に入国すると目の前に市場があり、高級ブランドコピー商品や日用



品、食料などをウィンドショッピングしながら滞在を楽しみます。ここでは英語が通じないのか、私のことをタイ人だと思っているのか、それともタチレクの人たちはタイ人なのか、お店の人はとても流暢なタイ語で対応してくれます。タイ語は相変わらずな状態なので、コミュニケーションをとるのは大変ですが、それに加えて英語の方がおかしくなって、完璧にタイグリッシュになっています。タチレクのイミグレーションでも私はタイ語を話したいのか、英語を話したいのかわからなくなってしまいました。



まったくタイ語を話せない状態でタイに来てしまいました。今では子どもはもちろん、スタッフとの会話も少しずつタイ語だけの会話になっています。タイ語を聞き取るのも大変ですが、タイ語を話すのも大変です。微妙で複雑な発音に5つもある声調が私をいつも苦しめています。CDで聞いて発音練習して試してみる、これの繰り返しです。子どもたちは私の発音がおかしいので、不思議そうな顔をしています。私が「何言ってるかわかった？」と聞くと「うん。わかった。」と言ってくれますが、気を使ってくれているのだと思います。

それでは、少し私の生活や子どもたちの生活を含めみなさんにご紹介したいと思います。ここでは曜日によっていろいろなところに市場が立ちます。いつもただの原っぱなのに、その曜日になると突然市が立っています。バイクを改造した食べ物屋さんやトラックでやってくる雑貨屋さんなど、食料から日用品まで買うことができます。移動式のお店なので、月曜日にあそこに市にいたおじさんが木曜日にここの市にいるということもよくあります。私はこの曜日市場に行くのが楽しみで、何か買うわけでもなくフラフラするのが好きです。市場では、私のことを覚えてくれるお店もあり、いろいろと話しかけてくれるようになりました。金曜日はカサロン





の家の近くに、近くと言っても歩いて20分くらいかかるのですが、市場が立つので、子どもたちは毎週とても楽しみしています。両手にいっぱいお菓子を買って仲良く帰ります。

子どもたちの生活をいろいろな側面で支えているのが寮父母のルウン・ケオとパー・プックです。二人は朝からそれこそ晩まで動き回っています。小さい子どもたちは、二人に何かあると「パー・クラブ」「ルウン・ケオ・カー」と報告の嵐です。最近タイ語がうまく話せなかった双子が上

手に話せるようになり報告の嵐に仲間入りしたので、寮母のパー・プックはこの報告攻撃に参っていました。ルウン・ケオは、厳しくそして優しく子どもたちに接します。ルウン・ケオがいるだけで、子どもたちにはいい緊張が走っています。パー・プックはとても明るい寮母さんでダイナミックに子どもたちと接しています。二人がいないとカサロンの家ははじまりません。

子どもたちが元気よく過ごす様子を見てみると、子どもたちが抱える問題などまったくないように思ってしまう

ますが、子どもたちの家族構成や家庭の事情を聞くと、タイには未だ多くの問題が残っていると感じます。山岳民族の貧困、麻薬、人身売買、HIV/AIDSの悪循環は未だに断たれていません。現在ドイサケット病院が持っている情報によると、ドイサケットには現在300名のラフ族が住み、そのうちの80パーセントがHIV陽性だということです。これはかなり高い割合です。教育の機会も、カサロンの家は山岳地



域に住む教育機会の得られない子どもたちのための家であるということからわかるように、山岳民族には未だ十分に供給されていません。カサロンでは年間3500パーツの支払いを親に求めています、それすら支払えない親が多数です。教育を十分に受けられなかった親たちが、山から下りて仕事を見つけ収入を得るのに苦戦しているのでしょう。

ある寮生は、ここに来る前に母親はすでに死んでしまい、高校を卒業した兄が他の3人の弟妹の世話をしていました。父親は仕事をしますが、あまり熱心に働くこともせず子ども

たちに興味がなく養育を放棄しています。他の寮生の保護者は、まったく支払いができず、この子はカサロンでの生活が危うくなっています。これ以上支払いが滞る場合は、保護者は子どもを家に引き取ると言っていますが、もしまだこの幼い子どもたちがこのまま家に連れ戻されてしまったら教育が受けられません。この先子どもたちに何が起るのでしょうか？私たちは、支払いが出来ないからといって、子どもたちを預かれないと言えるのでしょうか？市内には物乞いをする子ども、道には暑い中一日中花を売る子ども、



そして私たちの見えないところで暴力や様々な搾取を受ける子どももいます。なんとかしてここで子どもたちがこの悪循環に巻き込まれるのを防がなければなりません。

一人でも多くの子どもたちが一日でも長く、必要な教育や愛情や優しさを受けられるように、子どもたちを強く支えてくれる大人たちの存在が必要です。カサロンの家は4月ごろ女の子の部屋とキッチンルームが完成し、徐々に支援環境が整ってきました。これからもこの支援が持続的に行われていくことを祈らずにはいられません。長い目で支援を続けていけば、将来この子たちが大人になったとき、この悪循環を断ち切ってくれる日が訪れるのではないのでしょうか？子どもたちの今を支えるのが現地のスタッフであり、日本にいらっしゃる支援者の皆様なのだと私は考えています。

いかがでしたでしょうか、皆様の支援がどのような子どもたちを支えているのか、少しでもわかっていただければ幸いです。またブログも最新情報をどんどんUPしていきますので、どうぞ宜しくお願いします。



～カサロンの家からの報告②～

はじめましてキャンヘルプタイランドの皆様、私は4月1日よりカサロンの家に滞在させていただいております浅井美里の母の浅井寿恵と申します。日頃はナキリーご夫妻（カサロンの家を運営するタイラー財団の代表）はじめ、カサロンの寮父母さん、更に美里を日本から支えてくださっている皆様本当にありがとうございます。私事でございますが、6月11日から5日間カサロンの家にお世話になり、心に残るすばらしい体験をさせていただきましたので報告させていただきます。

- ◇ 美里から寮の御子さんの達のことはある程度聞いてはありましたが、本当に何でもやってこなす小さなお友達に脱帽でした。しかも、これは触れ合っただけで感じたのですが、ここのお子さん達はすぐれた思考能力が備わっていて指示待ちではなく行動に創意工夫が感じ取れました。
- ◇ 希望の家でもカサロンの家でも「ミサトゥ！ミサトゥ！」と娘を呼ぶ小さい子たちの声があちらこちらから聞こえてきます。娘は子供たちに「グルグルまわして！」おねだりされ、みんなにしてあげると筋肉痛になりタイガーバームが必需品になっているようでした。美里はタイ語が少しずつ話せるようになっていて、子ども達とコミュニケーションが取れだしているように見えました。
- ◇ 美里がよく「子どもたちが、かわいい！かわいい！」と日本にメールを送ってきていました。それは、この地に立ってみて実感しました。カサロンでは子どもたちが日曜日のミサでの発表に向けて歌と踊りの練習をするのですが、本番になると声が小さくなり恥ずかしそうになってしまうので、美里がそれを見ていて「声が小さいなあ～。いつもの元気はどこ？」と母親の心境になっていました。
- ◇ 希望の家に滞在中、喧嘩して泣きべそをかいている子を見ましたが、夜ゲストルームにいと子ども達のハッピー・バースデー・トゥ・ユーの歌声が聞こえてきて、ほのぼのしたのを感じました。知っていたら一緒にお祝いしたのに残念だな～と思いました。日本では核家族化が当たり前のよう

になっています。泣いても笑ってもひとつ屋根の下で支えあって一緒に暮らすことの素晴らしさを羨ましくも感じました。また、大きい子が小さい子の面倒をみている姿は心温まるものがありました。日本人が忘れさろうとしている勤勉とか真摯ということが、ここには存在していました。ここを訪れたすべての人がそう感じられると思います。

- ◇ カサロンの家では、何十年かぶりで蛍を見ることができました。希望の家のお隣に住んでいるチャムロンさんの生後一か月のメス牛のメラニンちゃん（美里が誕生にも立ち会い名付け親になった）にも会うことができました。帰国の時、庭にいたお子さんたちが駆け寄ってきてくれて全員と握手でお別れもできました。
- ◇ ナキリーご家族とカサロンの寮父母さんとスタッフの皆さんとお子さん達とチャムロンさん、滞在中はいろいろお気遣いいただき、皆様のお陰で楽しい5日間を過ごさせていただくことができました。また、何度も何度も「美里のことは心配ありません。」とおっしゃってくださいましたタッサニーさんに心から感謝申し上げます。
- ◇ これまでの皆様のご苦労・ご努力ははかり知れませんが、大森先生によって蒔かれた一粒の種が双葉に～そして今日になって多くの人の手によって見事に根付いてきれいに咲いていました。皆様どうかご自愛くださって、これからも一輪でも多くの花が咲き一つでも多くの実が成りますようお祈り申し上げます。お子さん達の健やかな成長とともに…。

あさい としえ

◇◇ カサロンの家ブログの紹介 ◇◇

カサロンの家の近況をブログでもご覧いただけます。子どもたちや寮の様子が詳しく紹介されていますので、ぜひご覧ください。

<http://kasalong.blogspot.com/>

活動報告

～4月～6月までの参加イベント報告～

この3ヶ月の間に参加したイベントの一番の目的は今年度のワークキャンプ参加者募集の広報活動です。イベントに参加する一般市民に、ワークキャンプの参加呼を呼びかける絶好の機会としてPR活動に勤めた一日でした。

報告者 大矢 治夫

～連合メーディ・フェスティバル～

「連合愛知」による毎年恒例の、メーディフェスティバルです。今年は4月26日土曜日に名古屋市南区の「日本碍子ホール」旧レインボーホールにて開催されました。昨年と比較すると観客動員も少し寂しい祭りでした。場内のイベントはフリーマーケットが中心で、沢山の店が出展しました。

NGO、NPO 格団体の雑貨販売コーナーはどこも苦戦の様子。私たちの雑貨売り上げはめて5,500円でした。



～タイフェスティバル・インなごや～

タイ大阪総領事館主催のお祭りです。昨年、会員の伊奈さんの紹介でワークキャンプの「ピラ」の配布をお願いした経緯で、ワークキャンプの土産の文具品持込に際して、関税免除の要請に尽力下さったこともあり、今年度もワークキャンプの参加募集ピラの配布と、写真パネルを数枚展示していただきました。



5月24日土曜日と25日の日曜日の二日間、栄の久屋大通り公園で開催されました。初日は夕刻から雨でしたが、二日間でおおよそ10万人の人出との事でした。用意したピラ200枚は初日でなくなるほどで、盛りだくさんのイベントと物販・屋台・レストランと大盛況の会場でした。

～愛知淑徳大学・榎田ゼミ・スタディツアー説明会～

榎田先生は国際交流関係の専門分野で活躍され、愛知万博にも広くかわり、東海地区ではよく知られた先生です。大学の文化創造学部のゼミ学生150人を対象に名古屋市を拠点に活動しているNGO団体による、夏休み期間中に実施するスタディツアーの説明会を企画されました。キャンヘルプタイランドを含め4団体が今年度のツアーの説明を行いました。愛知淑徳大学の学生は過去何名もワークキャンプに参加されています。榎田先生による情報提供のおかげと、今後も何かと協力が望まれます。



～なごやNGOセンター・スタディツアー合同説明会～

6月1日日曜日に名古屋市伏見の「なごやボランティアNPOセンター」で、東海地区に拠点を置くNGO団体合同説明会に参加しました。近年恒例のイベントで12団体が参加しました。格ブースを希望者が巡回します。キャンへは15名ほどが熱心に説明を受けていらっしゃいました。



お知らせ

～奨学金ドナーの皆様へ～

本年度は、奨学金の入金締切日を5月30日にさせていただきましたが、ドナーの皆様、奨学金プログラムへのご入金どうもありがとうございました。7月13日(日)アサイン作業(奨学生とドナー様のマッチング)を事務所で行いました。締切日が過ぎたものについては翌年度にまわさせていただきますので、ご了承下さいます様よろしくお願い申し上げます。

7月21日～7月30日まで現地タイにて奨学金授与式を行います。本年度の支援予定数は、約230名です。奨学金授与式後、奨学生の資料を日本へ持ち帰り、事務所で毎月翻訳会を開催致します。また、遠隔地の翻訳ボランティアの方々へ在宅での翻訳を依頼し、タイ語から日本語へと翻訳作業を行います。翻訳が全て終わり、資料が全て整いましたら、12月初旬頃にドナーの皆様へ奨学生の資料を送付致します。

今後も5月末までにご入金いただきます様よろしくお願い申し上げます。

奨学金スタッフより

イベント

～今後開催されるイベント情報～

○ワールド・コラボ・フェスタ 2008

今年も栄「もちの木広場」を中心に下記のように開催されます。

日時：10月25日（土）・26日（日） 10：00～16：00

“国際交流”“多文化共生”についての意識を高めることを目標に、愛知県国際交流協会、名古屋国際センター、JIDA中部、名古屋NGOセンター等で構成する実行委員会が主催します。

- ① ブース・・・参加団体の活動紹介、物品販売など
- ② ワールド・カフェ・・・“食”を通して異文化理解。お国料理がならびます。
- ③ ワクワク体験村・・・来場者と参加団体が一体となって、「地球課題」について学びます。

キャンヘルプタイランドは両日ともブース出展し、活動紹介とタイ民芸品の販売を行ないませんが、会員の皆様との旧交をあたためる場でもありますので、多くの方々の来場を心からお待ちしています。なお、当日お手伝いして頂け方も声をかけてください。

運営委員会

(2008年5月～2008年7月)

活動	月日	場所	内容
運営委員会	5月24日	事務所	奨学金授与式について
運営委員会	6月28日	事務所	ワークキャンプについて
運営委員会	7月26日	事務所	20周年記念事業について

運営委員募集

一緒にキャンヘルプタイランドの運営に参加してみませんか？ 毎月第4土曜日に事務所に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は 9月27日（土）13：00～（事務所にて）です。

編集後記

▼ いよいよ夏のワークキャンプの出発日が近づいてまいりました。約1年半ぶりの訪タイということで今からドキドキしています。今回はバンコクの東でカンボジアとの国境にあるサケーオ県に行くのですが、この県は2002年にも建設プログラムを行っており、今回のキャンプ中にぜひその時の学校を訪問できればと思っています。あの時建てた図書館はちゃんと使われているのでしょうか？今から楽しみです。
坂 茂樹

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.42>

発行 キャンヘルプタイランド
 発行人 西川 弘達
 編集人 坂 茂樹
 発行日 2008年7月26日
 住所 〒450-0003
 名古屋市中村区名駅南2-11-43
 NPOステーション内
 Tel & fax 052-566-5131
 (OPEN: 毎週火、木・土曜の13~17時)
 E-mail: canhelp@npo-jp.net
 ホームページ: http://www.canhelp.npo-jp.net